

# 中国語数量詞の話題<sup>1)</sup> 導入機能

滕 小 春・小 川 泰 生

広島大学総合科学研究科

## The Function of Topic Introduction in Chinese Numeral Classifiers

Xiaochun TENG and Yasuo OGAWA

*Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima University*

**提要** 有关数量词的使用问题论述较多，但众多的先行研究没有给出语法性的结论。譬如新信息说、个体化功能说、主题贡献说等只限于提供数量词整体上具有某倾向。而在实际的语言运用中，有很多现象用这些理论却很难解释。本文在把纯粹数量的表示，修辞，引用语言的说话人前以及“这”、“那”、“最”、“比”、“另”后的数量词运用情况设为非考察对象的前提下，通过对5篇童话中的数量词使用情况进行调查分析，发现作为话题的首次出现的有指名词前必须要加数量词，而除纯粹数量表示、描写和“是”字句以外，被数量词修饰的所有首次出现的有指名词都是话题。

### 0. はじめに

数量詞の使用についての論考は多いが、数量詞が数量を表す以外に、数量詞を使うかどうかについて、明確に結論づけたものは少ない。大河内(1985)は中国語の数量詞が個体化の機能を持つと主張したが、Sun(1988)は名詞が個体化する必要がある場合でも数量詞が使用されないケースが少なくなく、また、数量詞が指示不定(referential-indefinite)の名詞につくかどうかはその名詞がテキストのテーマに貢献があるかどうかと関係があると論じた。しかし、Sun(1988)のデータではその理論は数量詞を使用する傾向があるとしか言えず、数量詞を使うか使わないかを決められない。本研究では初出の新情報 referential 名詞(以下は「初出の名詞」で表す)に数量詞がつくかどうかは、その名詞が話題(文章単位或いはテキスト単位における話の中心)として登場するかどうかにより決まり、話題であれば数量詞がつき、数量詞のつく初出の名詞は描写、“是”の文と修辞を除いて、話題であることを明らかにする。

### 1. 先行研究

#### 1. 1 関連する先行研究について

中国語数量詞の機能についての研究は多い(Sun

1988、大河内1985、郭1995、Li2004、滕2007)。

- 1) Sun(1988)は中国語数量詞がテキストのテーマに貢献できる情報であれば使用される可能性が高いと論述した。
- 2) 大河内(1985)は中国語数量詞が名詞を個体化する機能を持つと論述した。
- 3) 郭(1995)は中国語数量詞が名詞を具体化する機能を持つと論述した。
- 4) Li(2004)は中国語数量詞が名詞を強調する機能を持つと論述した。
- 5) 滕(2007)は認知心理言語学の角度から、中国語数量詞は名詞を心像化する機能を持つと論述した。

2)、3)、5)は中国語数量詞の全体的な機能について、1)と4)はより具体的な機能について論述している。個体化機能理論によると、指示不定(referential-indefinite)の名詞には数量詞がつくべきであるが、Sun(1988)の調査データから見ると、指示不定(referential-indefinite)の名詞に数量詞のつかないケースが少なくないことがあり、数量詞の個体化機能の理論で説明できないところがあることがわかった。本研究はより具体的な機能の角度から考察する。初出の名詞に数量詞が使用されるかどうかはまだ不明な点が多

い。数量詞は一般的に初出の名詞につくといわれるが、実際の例から見るとそうではない(Sun 1988、藤 2007)。これについて、Sun (1988) は初出の名詞でも数量詞がつくわけではなく、数量詞の使用がそのテキストのテーマに貢献するかどうかと関係があると指摘している。しかし、この指摘にはまだ以下のような問題がある。

## 1. 2 Sun の研究について

Sun (1988) は数量詞の使用について、5つの中国語の童話を用いて、ある調査を実施した。その調査により、初出の名詞には全て数量詞がつくわけではなく、テーマに重要な貢献ができなければ、初出の名詞にあまり数量詞がつかなく、テーマに貢献できる初出の名詞には数量詞がつく傾向があることがわかった。しかし、その調査は名詞の出現頻度でその貢献度(名詞の重要度)を測り、出現頻度が高ければ高いほど貢献度が高いというように判断するので、数量詞の使用についての実態を正確に反映していない面もあり、それによって以下のような課題が残った。例えば、頻度によりテーマへの貢献度が決められるかという問題がある。出現頻度の高い初出の名詞のうちで一部は数量詞がつかないが、その理由は何か。数量詞がついても、なぜ初出の名詞は後の文章に出現しないのか。テーマへの貢献という概念は具体的に何を指すか不明であるので、外国人の中国語学習者にとって、このような説明では、実際に数量詞を使用する際に役立ちにくい。他の角度からより確実に数量詞の使用基準を決められないだろうか。

本研究では、初出の名詞と数量詞使用の関係についてより精確に説明したい。

Sun(1988)はreferential名詞の出現頻度が高ければ高いほど初出のとき、その名詞(referential-indefinite名詞)に数量詞がつく可能性が高いと指摘したが、そのとき数量詞がつかないケースもあることがSun(1988)の調査からも分かる。では、その数量詞がつかないケースについてどう解釈するか。この問題を考察するため、以下の文章を挙げる。この文章は中国の当代の有名な作家毕淑敏の小説《预约死亡》から取ったものである。新情報を考察するため、小説の冒頭の部分を資料にし

た。初出の名詞に数量詞がつくかどうかを判断するためである。

(1) 夫接过它，眼睛忽而大忽而小地凝视着。因

为夫的面色偏黄，在蓝光的辉映下，显出绿来。

姓名 毕淑敏 年龄 70岁 性别 女 籍贯 山东

诊断 肝癌晚期

……

夫翻来覆去地检视着，好象在欣赏深秋原野上最后一朵矢车菊。

“开什么玩笑。”他说。

我说，“不是开玩笑。是真的。”

他说：“什么是真的？70岁吧？肝癌吧？为什么要选择70？这是你的吉祥数吧？还有肝癌。就是一定要得癌症，就得别的癌好了，不要迁肝癌。我第一次听到这种病，是在毛主席的好干部焦裕禄身上。是它把焦裕禄的藤椅扶手抵出一个洞。”

我说：“70是上了诗歌的，杜甫语录。而且我以为70是一个界限。70以前算短寿，70以后就死而无憾了。至于肝癌，鉴于你不愿意听，我可以改为胰腺癌。”

夫说：“你饶了我最主要的是饶了你自已好不好？为什么非要选择这种绝顶可恶的罪名折磨自己？”

我说：“这不是罪名，是病，况且，都一样。”

他说：“什么都一样？病是不一样的。感冒只会使我们躺在床上，可癌会使我们死亡。”我说：“你不错。你在给一名优秀的内科医生当了近20年的丈夫后，已经相当内行。有人是久病成医，你是久爱成医。”

他说：“我们不说这个话题好不好？我知道你最近在临终医院采访，今天就弄了这个劳什子来吓我。我们离死还远着呢，我们还年轻。”

我拿起小镜子，照照他又照照我。屋里有许多镜子<sup>2)</sup>，可惜都象木板一样镶在固定的地方。我们每天走到那个角落撞自己，光线总是从特定的角度照着我们。在朦胧的昏晃里，我们总以为韶华依旧。

现在小镜子近在咫尺地逼视着你，你看得清

岁月之网每一个绳扣。

夫说：“鏡子<sup>3)</sup>老了。”

夫はそれを受け取ると、目を大きくしたり、小さくしたりしながら、それを見詰めていた。夫の顔色は黄色っぽいので、青い光に照らされて緑色になった。

氏名 畢淑敏 年齢 70歳 性別 女

出身地 山東省

診断結果 肝臓癌末期

…

夫は繰り返し診断書を確認していた。それはまるで晩秋の平野に残っている最後の一つの矢車菊を愛でているかのようだった。

「そんな冗談を言わないで。」と彼は言った。

「冗談ではなく、本当です。」と私は言った。

「何が本当なものか。70歳？肝臓癌？なぜ70歳を選ぶの。これは君のラッキーナンバーですか。それに、肝臓癌、本当に癌にならないにしろ、ほかの癌だったらよかったのに。肝臓癌にだけはならないで。私が初めてこの病名を聞いたのは、毛主席の良い幹部焦裕禄のことを聞いた時だった。この病気で、(彼は痛みを抑えるため、)藤製の椅子の肘掛(で腹をよく押して、その肘掛)に穴をあけた。」と彼は言った。

「70歳は杜甫によって詩で歌われたのよ。しかも、私も70歳が一つの境目だと思うわ。70歳以前は短命だけれど、70歳以降だと死んでも遺憾に思わない。肝臓癌というと、もしあなたが聴きたくなければ、私は膀胱癌と言い換えてもいいわよ。」と私は言った。

「君は、私に対するいじめをやめてくれな  
いか。最も大事なのは自分に対するいじめを  
やめてくれな  
いか。どうして、こんな憎らしい罪を選んで自分を苦しめるんだ。」と夫は言った。

「これは罪ではなく、病気です。それにどんな病気でも、同じですよ」と私は言った。

「どうして同じなんだ？それぞれの病気は同じものではない。風邪は人をベッドに横に

ならせるだけだが、癌は人を死なせるよ。」と彼は言った。

「あなたはすごいわね。優秀な内科医の夫として20年間勤めて、いろいろよく分かるようになったわね。皆は長い病気によって医者になるが、あなたは長い愛によって医者になったわ。」と私は言った。

「この話をやめてもいいかな？君が最近臨終病院で取材している事を知っているよ。だから、今日こんなことで私を嚇かすんだね。私たちにとって、死はまだ遠いよ。私たちはまだ若いから。」と夫は言った。

私は小さい鏡を持って彼を映し、そして自分も映した。部屋の中にたくさんの鏡があるが、残念なことに木の板のように固定された場所にはめ込まれていた。私たちは毎日その隅に行って自分の様子を見るが、映す角度はいつも同じだ。光線の朧な隅から自分の様子を見るとき、いつも自分が若々しいと思ってしまう。しかし、今、鏡が目の前で、私を見詰めると、私は歲月の網の一つ一つの結び目がはっきり見えるようになった。

「鏡は年をとったよ」と夫は言った。

この例文で、“界限”は後ろの文章に出ておらずここにしか出てこないで出現頻度は高くないが、後ろの文章は明らかに“界限”について説明しており、“界限”はこの話の中では話題である。それで、数量詞を使っている。それに対して“小鏡子”は3回も現れており、“界限”と比べると非常に高い出現頻度であるが、最初に出現した“小鏡子”には数量詞がついていない。なぜつかないのだろうか。文脈から見ると、“小鏡子”は当然、話題ではなく、ここでの話題は、人間の生命、歲月であるからである。

以上のことから、初出の名詞が1回しか出現しなくても話題になることもあれば、名詞が何回出ても、最初に現れる名詞が後ろの話の中心ではない、つまり話題ではないこともあることが分かった。そこで名詞の出現の頻度は数量詞がつくつかないかに関係ないことが判明した。

### 1. 3 仮説

以上から見ると、話題であるかどうかや数量詞をつけるかどうかの判断基準であると推測できる。Sun (1988) の調査結果もこの推測に根拠を与えてくれる。Sun (1988) はテーマに貢献できる情報であれば数量詞が使用されることと、名詞の出現頻度が高ければ高いほどテーマに対して貢献度が高いことを指摘しているが、話題であれば当然その名詞が何回も出現する可能性が高いので、頻度が高ければ、数量詞がつく可能性が高いからである。

仮説 初出の名詞に数量詞がつくつかつかないかはその名詞が後ろの話において話題であるかどうかと関係があり、話題であれば数量詞がつき、話題でなければ数量詞がつかない。

## 2. 調査

### 2. 1 調査材料

童話網 (<http://www.yn99.net>) にある 5 篇の童話をデータベースとして、テキストに現われた数量詞の数の調査を実施した。各作品は以下の通りである。

- 1) 鳄鱼皮鞋 (3064 字) 作家：肖定丽

- 2) 借尾巴 (1323 字) 作家：叶永烈

- 3) 一朵小白花 (1459 字) 作家：饶远

- 4) 小哈桑和黄风怪 (1890 字) 作家：刘兴诗

- 5) 拯救地球 (1227 字) 作家：李志伟

個人の言語習慣の影響を避けるため、それぞれ異なる作者の童話を選んだ。以上の作品のうちで、《借尾巴》は有名な作家叶永烈が書いたものであり、他は全て入賞作品なので、作品は質が高いといえる。作品の字数は実際の字数である。

### 2. 2 調査方法

調査材料に現れた「数量詞+名詞」構造を調査項目としてその数の統計をとった。この構造の全てが調査の対象ではなく、以下の場合を除く。1. 単純に数量を表す場合、2. 修辞の場合、3. 話をする人物に数量詞がつく場合、4. “这”、“那”、“最”、“比”、“另”の後ろに数量詞がつく場合。調査は一般文章、描写、“是”の文の三つに絞って実施した。

### 2. 3 調査結果

以上の設定にしたがって取った調査結果は表 1 の通りである。

表 1

作品	一般文章		描写		“是”の文	
	話題	非話題	話題	非話題	話題	非話題
鳄鱼皮鞋	11	3 (場所) 1 (時間)	2	3	1	0
一朵小白花	7	0	1	0	1	1
借尾巴	5	0	0	0	0	0
小哈桑和黄风怪	4	1 (場所)	0	0	1	0
拯救地球	4	0	0	0	1	0
合計	31 (86.1%)	5 (13.9%)	3 (50.0%)	3 (50.0%)	4 (80.0%)	1 (20.0%)
分類総合計	36 (100%)		6 (100%)		5 (100%)	

## 3. 分析

### 3. 1 一般文章、描写、“是”の文、話題の概念

分析する前に、一般文章、描写、“是”の文、話題という概念を確認する。

一般文章とは、描写、“是”の文と区別するために、本研究では描写と“是”の文以外の文章をいう。では、描写、“是”の文とは何か。

描写については、確実な定義がないので、本研究では、描写の規則を以下のように規定する。描

写とは人物の表情、様子、態度、動作、言葉、また事物について詳細に表す表現である。描写の目的は事物の細かいところまで再現することである。本研究では、人物の表情、様子、態度、動作、言葉などの状態、また事物の状態について複数の文を使って、連続で、細かく精確に集中して表すことを描写<sup>4)</sup>という。この状態は同じ場面で発生しているものである。一つの単文だけでは、細かく精確に表していても、本稿においては描写として扱わない。

(2) 恒星老医生戴上老花镜，然后摸出一个特大号的放大镜，在地球身上仔细观察<sup>5)</sup>。(拯救地球)

恒星先生は老眼鏡をかけてから、特大の拡大鏡を出して、地球の体を詳しく観察していた。

(2) では一連(三つ)の単文表現で、人物の動作と表情また事物について連続で、細かく(下線部は細かく表現している)集中して表しているので、描写といえる。しかし、この三つのうち、単独に出現した場合は、描写といえない。(2)に対し、(3)は描写といえない。

(3) 恒星老医生是戴着老花镜看的地球，他用特大号的放大镜看的，看的神情很仔细。

恒星先生は老眼鏡を使って地球を見たのだ。観察するとき、彼は特大の拡大鏡で見、その観察する様子は非常にまじめだった。

(3)は(2)と同じ主張(proposition)を表し、そして一連の表現であるが、しかし(3)には、“是”がある。そして、後続の2つの単文も、実質上“是”の文である。したがって、(3)において、その三つの単文は一連の状態だけに集中しておらず、判断の部分も入っているので、描写として扱わない。

“是”の文というのは、“是”を使って表す判断文のことである。

(4) 他是一个学生。

彼は学生だ。

初出の名詞の後ろに話の内容がくる場合、本研究において、その名詞を後ろの内容の話題という。その内容は名詞のすぐ後ろに来る場合もあれば、

ずっと後ろに来る場合もある。ここでいう話題とはテキスト、章、節、段落のテーマである場合もあるが、テーマでない場合もあり、一つの文章内に現れる場合もあれば、複数の文章として現れる場合もある。

(5) 在一个很大很大的沼泽里，生活着两只小鳄鱼，一只是鳄鱼哥哥，一只是鳄鱼妹妹。他们是很要好的朋友。(鳄鱼皮鞋)

あるとてもとても大きい沼沢に、二匹の小鰐が住んでいた。一匹は鰐のお兄さん、一匹は鰐の妹で、二匹はとても仲のいい友達だった。

两只小鰐魚は、後ろの“一只是鰐魚哥哥，一只是鰐魚妹妹”の話題である。これは一つの文章内に現れている。两只小鰐魚は後ろにあるもう一つの文章“他们是很要好的朋友。”の話題である。この場合は話題の内容は複数の文章として現れる。この内容は直後にはすぐ現れず、いくつかの文章、段落、節、章の後に現れる場合もあるが、ここでは、紙幅の関係で、例を挙げない。

### 3. 2 話題と数量詞使用の関係

#### 3. 2. 1 数量詞がつくと、初出の名詞は話題であるか

本研究の調査項目は数量詞のつく新情報名詞句である。先行研究で、すでに全ての初出の名詞に数量詞がつくわけではないことが分かったので、本研究では、より新しい知見を探さなければならない。新しい知見があるかどうかについて、初出の名詞を分類し、調査結果から分析したい。調査結果から見ると、一般文章の場合、数量詞がつく初出の名詞は物語の発生時間と場所(あわせて5個13.9%)以外は、全て話題として登場している(31個86.1%)。数量詞がつく初出の名詞は話題として登場するほうが圧倒的に多い。こうしたことから、次のように結論づけられる。中国語において、一般文章の場合、物語の発生時間と場所を指す名詞を除いて、数量詞がつく初出の名詞は話題である。

#### 3. 2. 2 初出の名詞が話題であると、数量詞がつくか

仮説 初出の名詞が話題であると、数量詞がつく

く。

初出の名詞に数量詞がつくと、一般文章の場合、場所と時間を除くと、その名詞が話題であることが分かったが、逆に、一般文章の場合、場所と時間名詞を除いて、話題である初出の名詞に数量詞が必ずつくか。これを考察するため、反証法を使う。

表 2

作品名	鳄鱼皮鞋	一朵小白花	借尾巴	小哈桑和黄风怪	拯救地球
無数量詞数	1	4	5	3	0

数量詞のつかない文章は下記の通りである。

- (6) 他们看蝴蝶跳舞，听鸟儿唱歌。鸟儿的歌声真好听，他们想靠近一点听，那些鸟儿看见他们，都吓得拼命地飞走了。（鳄鱼皮鞋）

彼らは蝶の踊りを見たり、鳥の歌を聴いたりした。鳥の歌は本当にきれいで、彼らはもっと近づいて聴きたかったが、鳥たちは彼らを見ると、びっくりして必死に飛んで逃げてしまった。

- (7) 一只小白鸽，把四封同样内容的叶形信，分别送给了音乐家、画家、诗人和哲学家。（一朵小白花）

ある小さな白鳩は四通の同じ内容を書いてある葉っぱの形をした手紙をそれぞれ音楽家、画家、詩人と哲学者に送った。

- (8) 老虎大王派出了自己的飞毛腿传令兵——羚羊，把布告贴遍整个森林。

兹定于明天召开百兽大会，请准时参加。小兔子看了布告以后，可犯愁啦，心里直嘀咕：“人家都有各种各样漂亮的尾巴，而我只有一条又短又小难看的尾巴。唉，就这样去参加百兽大会，简直太丢脸了！”

在回家的路上，小兔子碰上了狐狸。（借尾巴）

トラ大王は速足の伝令兵—カモシカに掲示を森中に張るように命じた。

明日、獣大会を行う。時間に遅れないように参加すること。

兔は掲示を見て「皆はそれぞれきれいな

反証 以上の5作品の中から、初出の名詞が話題として登場して、数量詞がつかないケースを探す。もし、なければ、仮説が成立し、あれば仮説は成立しない。

結果 初出の名詞が話題として登場しているのに、数量詞がつかない場合は表2の通りである。

尻尾を持っているが、私の尻尾は短小でも醜い。このまま大会へ参加すると面子を潰されるよ」とくよくよ悩んだ。

- (9) 小哈桑的家住在沙漠里。四周黄沙滚滚。沙漠里的“黄风怪”老是来欺侮他们。

…

第二天早晨，小哈桑一打开门，“黄风怪”就扇着翅膀，从大沙窝里飞来了（小哈桑和黄风怪）

哈桑君の家は砂漠の中にあつた。家の周囲は黄色の砂で氾濫した。砂漠にいる「黄風怪」がよくいじめに来た。

…

翌朝、哈桑君がドアを開けると、「黄風怪」が翼を振って、大きい砂の巣から飛んで来た。

では、この結果が仮説を支持することができるか。具体的な文章の中において、数量詞のつかない話題名詞は、数量詞のつく話題名詞と異なるところがあるのだろうか。これを考察するため、以下の実験を実施した。

被験者 中国語母語話者 16人で、全員22歳から30歳までの中国語学専攻以外の大学院生である。

実験材料 上の(6)から(9)の数量詞がつかない話題名詞の例文を実験材料1とする。実験材料1においてその考察項目に数量詞をつけた文を実験材料2とする。

実験方法 実験材料1と実験材料2を被験者に見せ、どのような違いがあるかを尋ねた。選択肢は①違いがない；②数量詞がついていない名詞はすでに知っている事物として扱われる；③そのほか（ ）の三つである。

実験結果 全員が“沙漠”以外は②を選択した。“沙漠”については、全員が③を選び、個別的な「砂漠」ではなく、類としての「砂漠」と解釈した。ゆえにこの場合の“沙漠”はreferentialではなく、類を表すので、調査項目としてふさわしくない。

実験の結果は、数量詞がつかなければ、その名詞がはじめて登場しても、話者がその名詞が既知である、つまり旧情報として扱われる、と中国語母語話者が判断することが判明した。文学や舞台劇などの芸術的な表現以外には、普通の日常会話の場合には、このような用法はないと思われる。以上の分析から、初出の名詞としての話題に数量詞のつかないケースは調査データからは見つけられないと考えられる。調査の結果から見て、数量詞がつくと、描写と“是”の文の場合、数量詞がついても初出の名詞が必ずしも話題であるわけではないが、以上のことから、話題の初出の名詞に数量詞が必ずつくると判断できた。

以上、反証法により、一般文章の場合、物語の時間と場所を指す名詞を除いて、初出の名詞が話題であると数量詞が必ずつくことを証明した。さらに、反証の結果によってこのルールが一般文章だけではなく、描写、“是”の文など全ての場合においても成立できることが分かった。ゆえに、話題の初出の名詞であれば、数量詞が必ずつくると判明した。

### 3. 2. 3 描写、“是”の文について

一般文章の場合、物語の時間と場所を指す名詞を除いて、数量詞がつく初出の名詞が話題であるが、なぜ、描写においてこの規則が成立しないのだろうか。

まず描写について分析する。描写において、初出の名詞に数量詞がついても必ず初出の名詞が話題として登場するわけではないことが、調査の結果分かった。これは数量詞のほかの機能と描写の

特徴によって決定されると考えられる。描写は人物の表情、様子、態度、動作、言葉、また事物について詳細に表したり、場面をより詳細に躍動的に記録するものであり、数量詞には心像化する機能があるため、数量詞を使用すると考えられる(藤2007)。

“是”の文は非常に複雑なので、数量詞がついても初出の名詞が話題にならない原因については、本稿ではこれ以上立ち入らない。以下、“是”の文において、数量詞の使用によって、話題の位置が変わることについて述べる。

“是”の文では一般的に述語の初出の名詞は話題になりにくい。なぜなら、一般的に主語が話題になるからである。例えば

(10) 他是舞厅里的白马王子。(鳄鱼皮鞋)

彼はダンスホールの白馬の王子様だ。

主語の“他”(すでに出現した青年)は最初に出現しており、述語の“白马王子”は主語の話題の内容になるわけである。しかし、例外もある。例えば

(11) “是另外一只小鳄鱼吗？她也许在另外一个老鞋匠那儿，那是个女鞋匠，她只做女人穿的皮鞋。”(鳄鱼皮鞋)

「あの小鰐ですか。彼女はたぶんもう一人の靴職人のところにいるだろう。あの職人(=“那”)は女性の職人で、女性の革靴しか作らない。」

主語は具体的な名詞、代名詞でなければ、話題になりにくいので、述語部分の具体的な事物を指す名詞、代名詞が話題になると考えられる。(11)の“那”はこのような話題になりにくい主語である。それ以外に、“…的”、“东西”などもそうである。また、“是”の文において、話題の中心が移る場合もある。話者にとって、主語は位置上話題になりやすいが、心理上述語のほうが話の内容の中心としてよりふさわしければ、述語に数量詞をつけて、話題を主語から目的語に移すと考えられる。

(12) 日本是一个汽车制造大国，汽车生产量占世界第一位。

日本は車の生産大国で、車の生産量は世界

一だ。

話者にとって、“汽车生产量占世界第一位”は“汽车制造大国”という話題についても述べたものである。

(13) 而且我以为 70 是一个界限。70 以前算短寿，70 以后就死而无憾了。

これは(1)の文章中の文である。“界限”という話題について、後ろの文章で説明しているのである。

“是”の文で、その“(一)个”の使用はどうか。郭 1995 は以下の例をあげて、修飾語がある場合、“(一)个”がかならずつく述べている。

(14) 他是一个很认真的学生。

彼はとてもまじめな学生だ。

確かに修飾語がある場合、数量詞のつく名詞が多い。しかし、この問題についてはまだ補うべき点があると思われる。まず、“是”の文には以上のような修飾語がある場合、全ての初出の名詞に数量詞がつくわけではないので、“(一)个”が必ずつくとはいえない。これは例(5)から分かる。

(5) 在一个很大很大的沼泽里，生活着两只小鳄鱼，一只是鳄鱼哥哥，一只是鳄鱼妹妹。他们是很要好的朋友。(鳄鱼皮鞋)

“是”の文において、話者が主語と目的語のどちらを話題にするかで“(一) + 量词”がつくかどうか決定される。主語を話題にする場合は、“(一) + 量词”はつかないが、目的語を話題にする場合は目的語に“(一) + 量词”がつく。(5)において、話者は“是很要好的朋友”を用いて“一只是鳄鱼哥哥，一只是鳄鱼妹妹”について説明しており、“他们”が主題である。したがって、“(一) + 量词”はつかない。

一般に主語は話題になりやすいが、“…的”、“东西”、“那”などがつく“是”の文では、主語は表示上概念不明で、話題にしにくいので、述語の初出の名詞に数量詞をつけて話題にしななければならないと考えられる。(15)は大河内(1985)が使った調査資料である。『桃太郎』の冒頭部分の中国語訳であり、調査のため、数量詞の必要な箇所にも数量詞を入れていない。この資料を用いて、

中国人に1)から30)に数量詞が入るかどうかを調査している。その結果、下線30)にインフォーマントは数量詞を入れている。下線29)“东西”は主語であるが、この後、“很大很大的桃子”に関して話が進んでいき、明らかに話者にとって話の中心は“很大很大的桃子”であるので、数量詞を入れたのだと考えられる。

(15) 很久很久1) 以前，在2) 地方，住着3) 老爷爷和4) 老奶奶，5) 夏日的一天，6) 老爷爷要上7) 山打8) 柴。9) 老奶奶：“快去快回啊！”

10) 老爷爷走后，11) 老奶奶又自言自语：“哎，我也到12) 河边洗13) 衣服去吧。”说完她就端着14) 盆到15) 河边去了。哗啦哗啦，哗啦哗啦，16) 老奶奶使劲地洗。

洗了一会儿，忽然看见有17) 东西从18) 上游一起一浮地飘下来。19) 老奶奶使劲地停住20) 手，歪着21) 脑袋思忖起来。那22) 东西圆乎乎的，有23) 西瓜那么大；白里透绿，绿中泛红。说它像24) 桃子吧，却比25) 桃子大；说它像26) 瓜吧，又比27) 瓜圆。就在她想着的28) 当儿，那29) 东西已经飘过来，可以看得清清楚楚了。原来是很大很大的30) 桃子。

むかし、むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが、住んでおりました。ある夏の日のことでした。おじいさんは山へシバかりに出かけました。「いってらっしゃい」おばあさんはおじいさんを送り出すと、「どれ、どれ、わたしは、川へせんたくに行きましょう。」とたらいをかかえて川へせんたくに出かけました。「ざぶざぶ、ざぶざぶ」おばあさんはせいだしてせんたくをしました。すこしすると、川上からうきしずみして流れてくるものがありました。「はて、なんだろう。」おばあさんは、せんたくをやめて、あたまをかしげて考えました。まるいものです。スイカぐらいの大きさです。白くて、青くて、うす赤です。桃にしては大きいし、ウリにしてはまんまるだし。と、もうそれは見えるところにやってきました。それは大きな大きな桃だったので。(樋口 2007 : p 49)



### 3. 3 “他昨天看了一部电影。”の成立問題

郭(1995)は以下の例を挙げ、過去の動作の目的語に数量詞がつく必要があると指摘した。

(16) 他昨天看了一个(部)电影。

彼は昨日映画を見た。

“他昨天看了一部电影。”と“他昨天看了一部电影。”から数量詞を抜いた文章“他昨天看了电影。”をあげて、それらの文が文章として正しいかどうか、中国語母語話者の大学院生11人に対して小調査1を実施したところ、全員が両方とも正しいと答えた。この結果から見ると、文法的に以上のような文章に数量詞が必ず要するとは限らない。

(16)に必ず数量詞が必要である前提は、後ろの話において“电影”が話題でなければならず、逆に、もし“电影”が話題でなければ数量詞がつくと間違った文章になると本研究の小調査2によって分かった。小調査2の調査対象は小調査1と同じである。“他昨天看了一部电影。”の後ろに、“电影”についての話が来なければ文章が成立できるか聞いたところ、全員が成立できないと答えた。“他昨天看了一部电影。”の数量詞“一部”をぬいても、この文章が成立できると認識した理由は、“电影”が初出の名詞として登場しない場合は、数量詞がつかなくてもいいと認識したからだと考えられる。

(17) - 昨天电影院上映了一部喜剧片(电影), 他昨天怎么没有去看?(この場合の“电影”は旧情報である)

- 他昨天看了电影呀。(この場合の“电影”は旧情報である)

- 昨日映画館でコメディの映画を上映したが、彼は昨日どうして見に行かなかったの?

- 彼は見に行つたよ。

(17)で、質問文に出た“电影”は初出の名詞であり、答えの文の“电影”は初出のものではないので、話題にならない。

(18) - 他昨天干了什么?

- 他昨天看了电影。(この場合の“电影”は non-referential である)

- 彼は昨日何をしたの?

- 映画を見た。

(18)で、質問された内容だけに対して答えれば、“电影”に数量詞がつく必要がない。この場合、数量詞をつければ、後ろに“电影”についての話の内容がなければ逆に自然ではない。

したがって(16)において、郭(1995)の文の成立問題についての説明は、後ろに“电影”についての話がくるという前提の上でのことと思われる。

## 4. 結語

数量詞の使用についての研究は多いが、多くの研究は数量詞の使用傾向について指摘しているだけで、文法のレベルで、一定の普遍性があるルールにまで帰納した研究はあまり多くない。したがって、具体的な場面で数量詞を入れるかどうかはつきりわからないので、学習者にとって頭の痛い問題である。本研究は①初出の名詞が話題であれば数量詞がつくこと、②描写、修辭、“是”の文を除く一般文章の場合、数量詞がつくと、その初出の名詞が物語の発生時間と場所である場合を除いて、話の話題であること、以上の2つの規則を明らかにした。

## 注

1) 『ラールス言語学用語辞典』によると、「話題とは《談話の主題で、事柄について何かを言う場合の、その事柄》、対話者の質問、あるいは状況によってテーマとして与えられるもの、と定義される。これは評言に対する。評言とは《人あるいはものについて言われること》である。(p423)」しかし、以上の定義では話題がどのように現れるかはつきりわかりにく

い。研究上の便宜のため、本研究では「話題」について具体的に説明した(p6、p7参照)。本研究における「話題」は規則的、狭義的である。このようにする理由は、一定の基準がなければ文法上の研究が行いにくいからである。この話題の定義は完全に厳密だとはいえない。

2) “许多镜子”は初出の“小镜子”を指さないで、類

- 度数として計算しない。
- 3) “鏡子”は“小鏡子”と完全に同じ表現ではないが、初出の“小鏡子”を指すことが明らかなので、頻度数として計算する。
- 4) 「話題」と同じく、描写についてはっきりした定義がないので、本研究では文法研究上の便宜のため、「描

写」を具体的に規定したが、一般的な定義としてはまだ吟味する必要がある。

- 5) “放大镜”より“特大号の放大镜”のほうが、“观察”より“仔细观察”のほうがより詳細に表現しているように、“拿”より“摸”のほうがより具体的、詳細に表現しており、描写の特徴を持つ。

### 資料出典

《鳄鱼皮鞋》肖定丽,

<http://yn99.363.net/mp336.htm>

《借尾巴》叶永烈,

<http://yn99.363.net/mp516.htm>

《小哈桑和黄风怪》刘兴诗,

<http://yn99.363.net/mp386.htm>

《一朵小白花》饶远,

<http://yn99.363.net/mp553.htm>

《预约死亡》毕淑敏

《拯救地球》李志伟,

<http://yn99.363.net/mp117.htm>

### 参考文献

- 相原茂他 1991. 数と量のマジック, 『中国語の叙述修飾語』, 大修館書店
- 相原茂他 2000. 『中国語教室Q&A 101』, 東京, 大修館書店
- 相原茂他 2003. 『中国語入門Q&A 101』, 大修館書店
- 相浦隆 1979. 『NHK中国語入門』, 日本放送協会
- 荒川清秀 2003. 『一步進んだ中国語文法』, 東京, 大修館書店
- 北京语言学院(編) 1981. 『中国語教科書』上巻, 東京, 光生館
- 北京语言学院(編) 1983. 『中国語教科書』下巻, 東京, 光生館
- Biq, Yung-0, 2004. Construction, reanalysis, and stance: ‘V yi ge N’ and variations in Mandarin Chinese, *Journal of Pragmatics* 36
- Chen, Ping, 2003. Indefinite determiner introducing definite referent: a special use of ‘yi ‘one’ + classifier’ in Chinese, *Lingua* 113
- 樋口幸子 2007. 「数量詞の表現誤用に関する一考察—誤用調査および誤用防止へむけた一提案」, 『中国語教育』第5号, 中国語教育学会
- 胡附 1967-?. 数詞和量詞, 《语文汇编》, 中国語文学社
- J. デュボワ [ほか] 1990. 『ラールス言語学用語辞典』, 伊藤晃 [ほか] 編訳, 東京, 大修館
- 郭春貴 1995. 日中両国語の数量詞の用法の相違, 『広島修大論集 人文編』第35巻 第2号, 広島修道大学人文学会
- 興水優 1964. “个”について, 『中国語学』144号, 日本中国語学会
- 興水優 1980. “个”, “条”, 『中国語基本語ノート』, 大修館書店
- 黎锦熙 1938. 《新著国語文法》, 长沙: 商务印书馆
- Li, Wandan, 2000. The pragmatic function of numeral-classifiers in Mandarin Chinese, *Journal of Pragmatics* 32
- 劉月華 [ほか] 1988. 3-1991. 『現代中国語文法総覧』, 片山博美 [ほか] 訳, 東京, くろしお出版
- 劉月華 1992. 『中国語の表現と機能: 平叙文 疑問文 請願・命令文 感嘆文 応答文』, 平松圭子, 高橋弥守彦, 永吉昭一郎共訳, 東京, 好文出版
- 呂叔湘著 1955. 《漢語語法論文集》, 北京, 科学出版社
- 馬真&郭春貴 2001/2003. 「数量詞」, 『簡明中国語文法ポイント100』, 東京, 白帝社
- 望月八十吉 1970. 『中国語学習のポイント』, 東京, 光生館
- 望月八十吉 1981. 『中国語と日本語 再版』, 東京, 光生館
- 望月八十吉 1994. 『現代中国語の諸問題』, 東京, 好文出版
- 中川正之&李浚哲 1997. 日中両国語における数量表現,

- 『日本語と中国語の対象研究論文集』, くろしお出版社
- 奥田寛 1982. 说“一个”, 『中国語学』229号, 日本中国語学会
- 大河内康憲 1985. 量詞の個体化機能, 『中国語学』232号, 日本中国語学会
- 大原信一 1973. 『中国語と英語』, 東京, 光生館
- 芝田稔・鳥井克之 1985. 数量詞“一个・一种”の不定冠詞的用法, 『新しい中国語・古い中国語』光生館
- 杉村博文 1994. 『中国語文法教室』, 大修館書店
- Sun, Chaofen, 1988. The Discourse Function of Numeral Classifiers in Mandarin Chinese, *Journal of Chinese Linguistics* 16
- 滕小春 2007. 『中国語数量詞における認知・語用論一心像化のおよぼす記憶への効果』, 広島大学社会科学研究所修士論文
- 土屋伸一 1979. 『中国語文法入門』, 東京, 大学書林
- 王力 1954. 「一」「一個」, 《中国現代語法》下冊, 中華書局
- 吳麗君他 2005. 『中国語の誤用分析』, 西川和男編, 関西大学出版部